

平成26年度 阿賀野市外国語活動部 活動報告

部長 小林 健太郎

1 研究主題

子どもたちが主体的に学ぶ授業・支援の在り方

2 研究の概要

4月22日（火） 組織の構成・役割分担・事業計画の作成

11月25日（火） 講師を招いて「今後の外国語活動の動向」の研修会

3 研究の実際

今後の外国語活動の動向」の研修会（於；京ヶ瀬小学校）

講師：青木 清美 様（新潟市立潟東東小学校長）

概要： 2020年度から全面実施となる予定の「英語」の教科化に向けて、今後の動向を捉え、教科化に向けてどのように推進していったらよいかを探るため、講師を招いて話を聞いたり、部員間で意見交換をしたりして研修を深めた。

内容： 冒頭、青木校長からは、コップ（オランダ語；英語はグラス）やパン（ポルトガル語；英語はブレッド）のように、私たちの身の回りにある外来語を取り上げ、英語に限らず「言葉に対する感覚」を育てることの大切さを教わった。

続いて、小学校英語教育学会（7月26日；青木校長参加）での講演及びシンポジウム資料等を基に、文科省の示している最新の英語教育の動向の説明を受けた。

その後、部員間の意見交流で、以下の、現在抱えている疑問や不安を青木校長も交えて話し合った。



- ・評価は誰がどのようにしていけばいいのか。（ALTとの連携、担任の負担）
- ・小学校と中学校のつながりはどうしていったらいいのか。（小中の連携）
- ・学力差（英語を習っている子と習っていない子）をどう埋めていくか。
- ・英語嫌いを生まないために留意することは何か。
- ・小学校教師の英語力をどうやって高めていくのか。 など

青木校長からは、現在行っている外国語活動の趣旨を大切にして、今後も着実に学習を進めていくことや、ローマ字（ヘボン式）を習熟させて中学校に送ることが必要だということに加え、英語教育に関する内容は、まだ不確定なことも多く、今後、新しい情報が出されてくるので、その動向を注視し、中長期的なビジョンで捉えていくことが大切だと教えていただいた。

4 成果と課題

今年度の研修では、最新の英語教育の動向を教えてもらったり、現在抱えている疑問や不安を部員で共有しながら話し合ったりしたことで、今後のビジョンをもつことができた。まず、目の前にいる子どもたちにかに力をつけていくか、部員一人一人の課題として日々実践していきたいと考える。